



やかただより

広川町
全戸配布

第97号
平成30年11月

「稲むら」が出現！！

「稲むらの火」の名前の由来である「稲むら」が、広村堤防・赤門の近くに作られました。和歌山県では「ススキ」と呼んでいました。

昔はお米の取り入れが終ると、ほとんどの田んぼにこの「ススキ」が作



られ、稲藁を保存したものでした。私も小学生時代は、夕方になると田んぼに干している藁を集めたり、父が藁束を積上げていくのを、下から投げる手伝いをしたものです。

「稲むら」は広川町の日本遺産「百世の安堵」の構成文化財としても認定されています。今回、広川町内の有志団体「稲むらのいなほかい」が昔あった本格的な「稲むら(ススキ)」を作ってくれたものです。フェイスブックへアップしてもたくさんの“いいね”をいただいています。最近、なかなか見る機会がありませんから、今のうちに、写真に撮ってください。

.....

11月5日は「世界津波の日」

この「やかただより」が皆様のお手元に届く頃は、11月5日のぎりぎりかもしれませんが、11月5日は「世界津波の日」です。広川町では、いろいろの催しがあります。

朝、9時から第116回津浪祭です。災害を伝承する催しが100年以上続いているのは、たいへん珍しいということで注目されています。

国連ユニタール主催、海外の女性リーダーの防災訓練で広川町へ来られます。津浪祭へ出席したり、子どもたちとの避難訓練をします。

小中学校、社会見学真っ最中

10、11月は例年社会見学で、多くの小中学生が、稲むらの火の館へ来館されます。特に小学生は、4年生の社会科の教科書に載っていることもあって、多くの児童が来られています。木曜日、金曜日に数多く来られることもあって、子どもの声で大賑わいです。10月は小中学校53校、3000人、11月は37校、1800人が予約されています。館内でのガイドダンスも1日、10回という日もあります。語り部さんが、6回案内する日もあって、大忙しですが、子ども達からの質問も出て、皆さん張り切って「濱口梧陵」「稲むらの火」「津波防災」の話をして防災情報を発信しています。



堤防は台風で被害を受けました

今年は3回も台風が近くを通りました。町内でもかなりの被害を受けました。「広村堤防」の松の木も太い幹が折れていました。館の3階から眺めると、以前よりだいぶ空いていて、ちょっと淋しい感じです。人的被害が無かったのはなによりでしたが、いろいろの災害に備える必要があると思いました。

「稲むらの火の館」は津波防災を学んでいただく施設として、広川町内だけではなく、和歌山県内、日本国内からも見学にきていただいています。また、近年は「世界津波の日」の制定を機に、海外からも多くの方々が来館され津波防災を学んでいます。しかし、津波だけではなく、どんな災害にも応用が利くと思いますので、皆様改めて見学にお越しください。自らの命を守るために役立つと思います。

濱口大明神縁起を読み（その2）

濱口 擔（かわせみより）

其の後杉村楚人冠君が『梧陵伝』を書いている際に、第十三章『リビング・ゴッド』の稿を執筆中、其の原稿の訂正を私に送って来た時に、『あの記事(日本協会に於ける出来事を指す)を書きながら、只何となしに涙がぼろぼろ流れ出でて、到底筆を進める事が出来ない。どうしてもあれば君自身が書いて置かねばならぬものである』と原稿紙の一隅に書いてよこされた事があった。私に対して同情を持って呉れている人であれば、十数年の時日を経過した後にでも、実際事実を目撃しなかった他人でさえも、其の時の事を想像して泣いてくれるのである。況んや親身の私として其の時その場合、歓呼喝采の渦巻の中に置かれたるに於いてをや。興奮もしよう。傾倒もしよう。私は生来あんな感情の高潮した状態に置かれた事がないのである。此の先き何年生き延びようとも復たと再びああ云う場合に出くわそうとは思いつかぬ。否、私以外の人でも、如何なる事柄に付ても、如何なる場合に於いても、あれ程の思いをした人は恐らく幾人もあるものではないと思う。これ程の出来事であるのであるから、云はるる迄もなく当時の事実と感想とを成るべく詳細に書いて置きたい事は山々であるけれども、悲しい哉、私には其の光景其の感情の百分一もあらはし得る丈の文筆がない。思い切って書いて見ようと思う勇氣も出ないのである。処が此の程翡翠社から『かわせみ』九月号を寄せられた翌日、交詢社で杉村君に逢った時に、又改めて前掲の事を繰返して云われた。あたかも『濱口大明神縁起』を読んで古い記憶を喚起し当時の感情を呼覚ました際であるから、兎も角も事件の側面描写のつもりで之れ丈書いて見た。或は私に採っては一大事件である所の此の事に関する私の記録は、之れ以上には出来ずじまいに終るかも知れない。若しそうなれば猶更の事、此の因縁を作ってくれた『濱口大明神縁起』の筆者たる貴兄の賜ものは、決して小さくないのである。

(つづく)

防災検定「自由研究」作品展示

広川町の4年生と6年生が毎年防災検定を受けています。9月に、その防災検定を主宰している(一般財団法人)防災教育推進協会の笠間正弘防災教育センター長をお迎えして、稲むらの火講座を開催いたしました。その際に、昨年の防災検定受験者が提出した「防災自由検定」の作品をお借りして、現在も「稲むらの火の館」



へ展示しています。子ども達が一生懸命に調べて作り上げた作品です。1階玄関横の多目的室と3階ガイド

ンスルームへ展示しています。多くの皆様、どうぞ見学にお越しください。

~~~~~

全国地震動予測地図揭示！！

この程、和歌山地方気象台から「全国地震動予測地図」をいただき、館内へ揭示しました。

「全国地震動予測地図」とは、将来日本で発生する恐れのある地震による強い揺れを予測し、予測結果を地図として表されたものです。国の地震調査研究推進本部により作成されています。



<稲むらの火の館の紹介>

- 濱口梧陵記念館/津波防災教育センター
- 〒643-0071 住所 和歌山県有田郡広川町広 671
- <http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/>
- \*開館時間：午前10時～午後5時(受付終了4時)
- \*休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)
- (世界津波の日の11月5日は開館)
- 年末年始(12/29～1/4)
- \*記念館だけの入場は無料です